

# スノーフレーク

## 概要

和名（科名）	スノーフレーク、スズランズイセン、オオマツユキソウ（ヒガンバナ科）
英名	Summer Snowflake, Loddon lily
特徴	春咲きの球根植物。鱗茎は直径 2.5~4 cm の卵形で、2月頃、鞘葉に包まれた4~5枚の葉を出し、幅 1.5 cm、長さ 30~40 cm のベルト形に伸長、5月下旬には枯れて休眠に入る。4月上旬、30~40 cm の花茎の先に1~4個の花をつける。花は直径 1.5 cm の釣鐘状で、花被片は白色、先端に緑色の斑点がある。花がスズランに似て、草姿がスイセンに似るのでスズランズイセンという和名がついた。
有毒成分	アルカロイド（リコリン、ガランタミン、タゼチンなど）
分布	ヨーロッパ中南部原産で、北米東部などでは野生化。耐寒性があって露地栽培が可能なため、日本でも花壇や鉢植えの園芸植物として広く栽培される。

## 毒性

部位	葉	鱗茎
毒性	中	中
食用の可否	×	×

(写真)



スノーフレークの群生



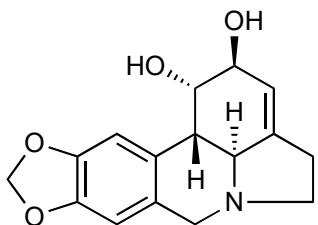
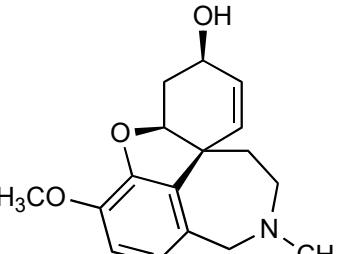
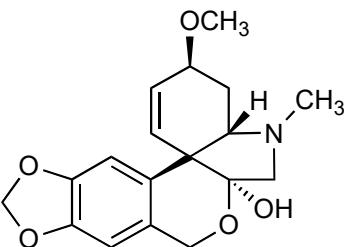
花はスズランに似る

## 詳細

### 1 特徴

一般名	スノーフレーク、スズランズイセン、オオマツユキソウ
英名	Summer Snowflake, Loddon lily
学名	<i>Leucojum aestivum</i> L.
分類	ユリ目 <i>Liliales</i> 、ヒガンバナ科 <i>Amaryllidaceae</i> 、スノーフレーク属 <i>Leucojum</i> (APG 分類体系ではキジカクシ目、ヒガンバナ科、スノーフレーク属)
生育地	ヨーロッパ中南部原産で、北米東部などでは野生化。耐寒性があつて露地栽培が可能なため、日本でも花壇や鉢植えの園芸植物として広く栽培される。
形態	春咲きの球根植物。鱗茎は直径 2.5~4 cm の卵形で、2月頃、鞘葉に包まれた4~5枚の葉を出し、幅 1.5 cm、長さ 30~40 cm のベルト形に伸長、5月下旬には枯れて休眠に入る。4月上旬、30~40 cm の花茎の先に 1~4 個の花をつける。花は直径 1.5 cm の釣鐘状で、花被片は白色、先端に緑色の斑点がある。花がスズランに似て、草姿がスイセンに似るのでスズランズイセンという和名がついた。
	 <p>スノーフレークの群生</p>
	 <p>市販のニラ(左3本)と スノーフレーク(右)の比較</p>

## 2 毒性成分情報

毒性成分	リコリン lycorine、ガランタミン galanthamine、タゼチン tazettineなどのアルカロイド（スイセンと同様）
	 <p>lycorine</p>  <p>galanthamine</p>  <p>tazettine</p>
中毒症状	吐き気、嘔吐、頭痛など
発病時期	食後 30 分以内に発症。
発生事例	スノーフレークによる食中毒は、2014年初めて報告された。2014年4月、愛知県日進市の家族3人が、自宅近くの空き地に生えていたスノーフレークを探って食べ、軽い嘔吐などの食中毒症状を発症したが、一日以内に回復した。3人は70代の夫婦と40代の息子で、「茎がニラに似ていた。焼きそばに混ぜて食べた。」と話したという。
中毒対策	葉がニラに似ているため、花が咲いていないと間違える例が多い。家庭菜園と花壇を区別し、家庭菜園にはスノーフレークやスイセンなどを植えないようにする。臭いでニラとの区別は容易。
毒性成分の分析法	リコリン類アルカロイドの分析は、スイセンに準ずる。

## 3 その他の参考になる情報

間違えやすい植物	葉の形状はニラによく似ているが、ニラよりも幅広い。ニラは強烈なニラ臭があるが、スノーフレークは青臭い不快臭があるので、臭いを嗅げば見分けることは容易。
----------	---